

都市再生整備計画(第2回変更)

栄町 安食・布鎌地区

千葉県 栄町

平成21年8月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	栄町	地区名	栄町安食・布鎌地区	面積	990 ha
計画期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度
交付期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度

<b>目標</b> ○安全で安心な活力ある共生社会の実現 目標①:安全・安心して歩行・走行できる道路整備及び生活環境の整備 目標②:老朽化した広域避難場所の耐震整備を進める
---

<b>目標設定の根拠</b> まちづくりの経緯及び現況 [まちづくりの経緯] 本町は、千葉県の北部に位置し、東は圏域の中核都市である成田市、西は印西市、南は本埜村・印旛沼、北は利根川をはさんで茨城県に接しており、広域的に東京都心からは45km、県都千葉市から35km、また、成田国際空港からは10kmの距離にある。 町域は、東西に約12km、南北に約5kmの東西に細長い地形で総面積は32.46km <sup>2</sup> 。町の北部一帯は利根川流域の沖積低地で肥沃な水田地帯が広がり、東部には標高30m前後の洪積台地が広がり、丘陵部には山林が多く、古代から集落が形成されていたとみられる。また、利根川・印旛沼・長門川・将監川といった水辺空間にも大変恵まれている町である。 昭和30年12月に旧安食町と旧布鎌村が合併した当時は10,136人だった人口も、この頃から大都市就業地への人口流出が顕在化し、過疎化傾向が昭和44～50年頃まで続き、一時は8,708人まで減少した。しかし、千葉ニュータウンの建設等といった大型プロジェクトが近隣地域で計画・事業化されるという状況下、当町においても首都圏の都市化の影響が及びぶことを踏まえ、栄町総合計画(『水と緑の田園観光都市』:3万人都市づくり構想)を昭和47年12月に策定以降、3万人都市づくり構想実現に向けて準備に入り、昭和52年11月29日、成田都市計画区域に編入。この頃から、安食台・酒直台・竜角寺台・南ヶ丘地区の宅地開発事業が開始され、都市計画区域に編入した当時は9,160人だった人口も、入居が開始された昭和58年には10,989人、平成元年には21,346人を数える順調な増加を見せ、その後も微増ではあるが増加を続け、平成8年には26,000人を超え、昭和47年に打ち出した3万人都市づくり構想は概ね達成した。 [現況] ○道路は、町民の日常生活や経済活動を支える最も基本的な生活基盤施設であり、公共機関や主要な施設を結びつけ、広域幹線道路と相互に連絡し、地域間の交流と連携を促進するために欠くことのできないものである。このため、誰もがスムーズに移動でき、安全でかつ安心して利用できる道路の整備を実施してきた。しかし、計画区域内には、道路の道路幅員が狭かったり、クラックが無数に入っている箇所や未舗装箇所も多数見受けられるなど、整備水準に大きな較差があることから、緊急性が高い箇所から順次整備を進めている。 ○広域避難所に指定されている各小中学校及び集会施設への避難路は、丘陵地、田園地域が多く、夜間時における災害の際には、避難所への経路は暗い地域が多いことから、住民にとって不安に感じている。 ○布鎌小学校は、万一の災害時の広域避難場所に指定されているが、避難所施設である屋内体育館は、昭和48年築であることから老朽化していることに加え、耐震基準に適合していない。
--

<b>課題</b> ①整備地区内の道路は幅員が狭隘なことに加え、路肩が崩れているところも多数あり、小中学生の通学路であるだけでなく、災害時における広域避難所への避難路でもあることから、歩行者・通行車両の安全確保を図る必要がある。 ②地区内の道路には、防犯灯が十分に設置されていない箇所があることから、災害時、特に夜間における避難所への誘導の際には支障があるため、避難所への誘導も兼ねた防犯灯を計画的に整備する必要がある。 ③布鎌小学校の屋内体育館は、建築後、相当の年月が経過し、耐震基準に適合していないため、広域避難場所施設としての機能を確保するため、代替の必要がある。
--

<b>将来ビジョン(中長期)</b> [栄町将来像] 町の将来像として掲げる「水と緑の田園観光都市」実現に向けて、「豊かな自然環境の中で、快適で住みよいまちを創造する時間＝生活基盤」を一つのテーマとして掲げられている。 [栄町後期基本計画] 本基本計画では「安全で安心な活力ある共生社会」を目指して、基本構想のテーマの一つである「豊かな自然環境の中で、快適で住みよいまちを創造する時間＝生活基盤」の中で生活基盤の充実が示されている。
--

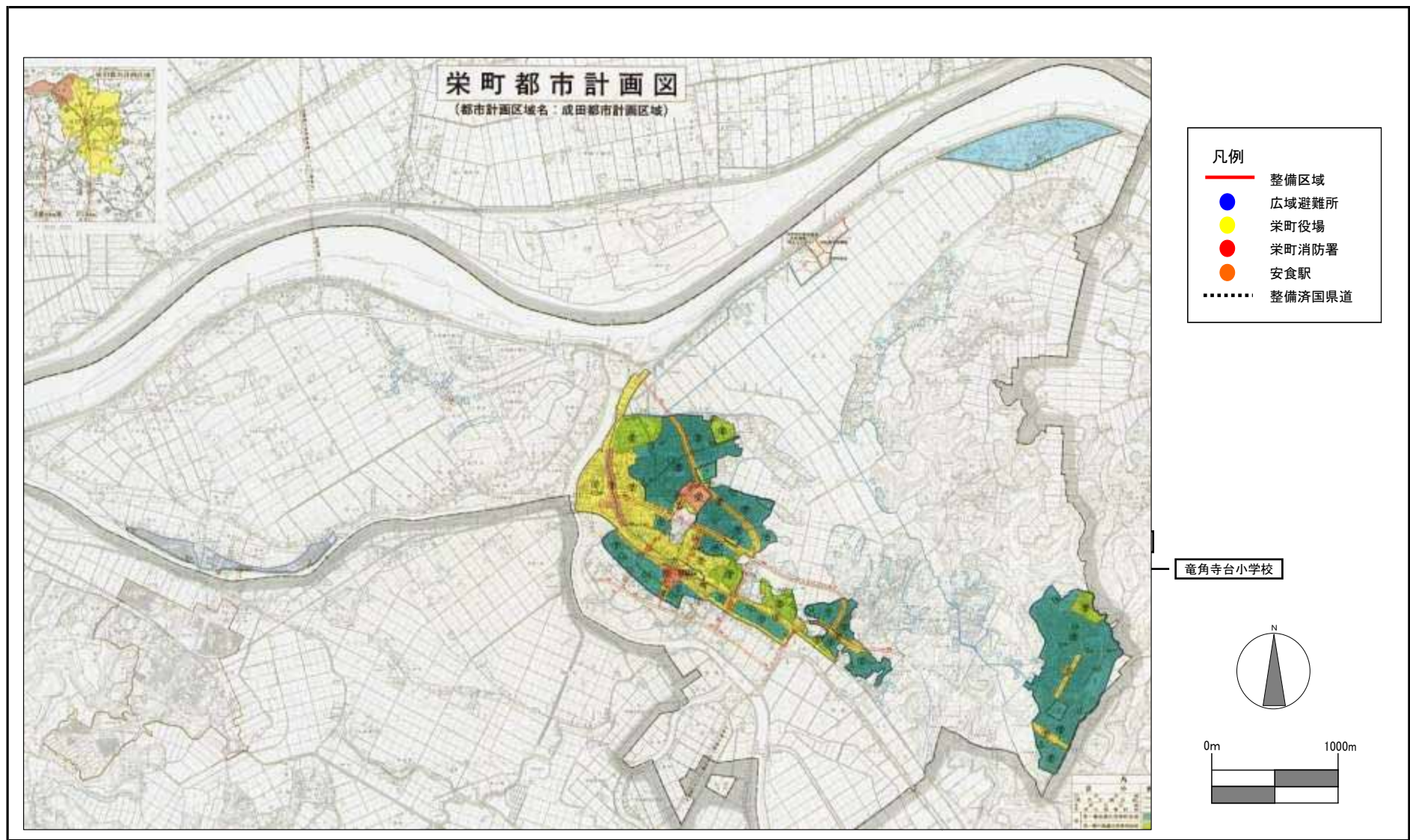
<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
道路整備要望件数の解消数	件	道路の整備要望件数に対する解消件数(整備済み件数)	区域内の道路整備の要望箇所を整備することにより、安全で安心して利用でき交通環境の向上が図れる。	79	H18	59	H24
交通事故発生件数	件	整備地区内での交通事故発生件数	安全に走行できる道路整備を推進することにより、交通事故発生件数を減少させる。	76	H18	68	H24
地震災害時避難者収容充足率(布鎌地区)	%	地震時における布鎌地区避難所生活者想定数に対する避難所収容定員の比率	地震災害時の避難施設収容能力から防災面の備えを判断する。	23.07	H19	25.66	H24

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>方針1：広域避難所の安全を確保するとともに、適正な道路管理により快適に走行できる道路環境の整備及び歩行者の安全を確保するための防犯灯の整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域避難場所になっている公共施設等へ通じる道路の適正管理を行うことで安心して円滑な移動ができる道路整備を進めるとともに、避難所経路が暗い箇所を解消するため、避難所への誘導を兼ねた防犯灯の設置を進める。</li> <li>・広域避難所として指定されている布鎌小学校の屋内体育館の老朽化に対応するため、現体育館の解体及び改築を行う。</li> </ul>	<p>《基幹／道路》            道路修繕・改良事業 町道1005号線他／町道19021号線他／町道12043号線他／町道13014号線            ／町道11058号線他／町道15076号線／町道21046号線他／町道22004号線他／町道22111号線            ／町道23065号線他／町道2003号線／町道14006号線他            《提案／地域創造支援事業》  <input checked="" type="checkbox"/> 防犯灯設置(町道11002号線沿線／町道11314号線他沿線／町道11049号線他沿線／町道1004号線沿線／町道15067号線沿線)  <input type="checkbox"/> 布鎌小学校屋内体育館解体            《関連》  <input type="checkbox"/> 布鎌小学校屋内体育館改築            《提案／事業活動調査》  <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果分析調査</p>
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続的な道路整備の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業終了後においても、計画的な道路整備を推進し、生活道路及び災害発生時において安全で安心して歩行・走行できる避難路としての道路機能を確保していく。</li> </ul> </li> <li>○既存団体の育成・強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区においては、万一の災害に備え自主防災団体が組織化され、災害が発生した場合の自助・共助・公助の精神に基づき、「まずは地域から」の視点に立った防災活動が展開されつつある。今後は、更に自立した自主防災組織の活動の質を高めるため、継続した支援を行い、広域避難所及び避難路を地域住民に周知を図っていく。</li> </ul> </li> </ul>	

都市再生整備計画の区域

栄町安食・布鎌地区(千葉県栄町)	面積	990 ha	区域	安食地区の一部、安食1丁目・安食2丁目・安食3丁目地区、安食台地区、北辺田地区の一部、酒直地区の一部、竜角寺台地区、布鎌地区の一部
------------------	----	--------	----	---



栄町安食・布鎌地区(千葉県栄町) 整備方針概要図

目標	○安全で安心な活力ある共生社会の実現	代表的な 指標	道路整備要望件数の解消数 (件)	79	(H18年度)	→	59	(H24年度)
			交通事故発生件数 (件)	76	(H18年度)	→	68	(H24年度)
			地震災害時避難者収容充足率(布鎌地区) (%)	23.07	(H19年度)	→	25.66	(H24年度)

